校長室から　12（season２）　「光陵生全員が思い形になる（学校行事の意味）」

～光陵生の自主運営による体育祭～

令和５年５月 24 日　６年ぶりに、本校グランドでの、フルメニューでの、第 56 回体育祭を開催することができました。

平成 30 年度から始まった校舎耐震工事に伴い、仮設校舎をグランドに設置

令和２年度からの新型コロナウィルスの流行　などの理由から、

ここ数年は、開催場所の変更や競技種目の縮小と、いろいろな制限がかかった中での体育祭でした。

前日の雨の影響で、グランドの状況が思わしくなく、1 時間遅らせての実施。ただでさえ、昨年度より競技種目を増やした計画でしたので、終わりの 1, 2 種目は実施できなくなる可能性があることを、生徒の実行委員幹部との協議の中で確認してのスタートでした。

光陵生の意識の高さ、ポテンシャルの高さに驚嘆

本校の学校行事は基本的に、極力、運営等に職員がかかわらずに、生徒の自主性に任せて進行されています。

学校関係者であるなら、ある程度理解していただけると思いますが、体育祭のような大人数が参加する大会で苦労するのは、招集や誘導などの人の動かし方です。

競技ごとに体育祭実行委員長の声掛け。各クラスから選出された実行委員の各係の指示。

それに反応して、すべての生徒が時間を守っての行動。

いや、予定時間よりも迅速に、集合、移動　解散　……。

「コロナから解放された今年は、すべての競技をやりきる」という全生徒の思いが一つになり、昨年よりも種目が多く、１時間遅れの開始の中、なんと、すべての競技を予定通りに実施することができました。

年度のスローガンは「自由闊達」。パンフレットの中の実行委員長の挨拶文は、

「今年の大会はなんと、色々な規制がなくなりました！コロナコロナとうるさく言われ続けた数年間。自由にやりたいのにできなかったことが多くあったと思います。そんな年も今年で終わり！自由に楽しんでほしいです！思いっきり！だからこそ皆さんの協力が必要です！」とつづられています。

そう、光陵生全員の協力が、思いが、一つの形になった体育祭。

実行委員幹部たちは、今日１日の中でも成長し、全生徒にとって素晴らしい体験であったと思います。

昨年、私は、この校長室から　1（season２）で

『「人間関係形成」，「社会参画」，「自己実現」……

このような行事の、様々な準備の中で、人と人との「ふれあい」や「いさかい」を経験し、様々な困難さを乗り越えることで、仲間との結びつきがより強くなり、より大きな達成感も味わえる。

コロナ禍によって、不自由さを経験した今、改めて集団での学びの場である、学校教育の意義が再確認されます。』

と記しました。

思い返せばこのコロナ禍の中で、生徒にどれだけの自粛を求めてきたのか。

「コロナに感染させない」ということだけを絶対の命題として、高校生活の中でしか体験できない、本当に大事なものを失わせてしまったのではないか。

コロナ禍を経て、学校教育ですべきこと、学校教育の中でしかできないこと、などを整理して学校運営に努めてまいりたいと思います。

令和５年６月 13 日